

物理学委員会・総合工学委員会合同IUPAP 分科会（第24 期・第1回）

議事録

日時：2018年1月29日 15時～17時

場所：日本学術会議6階 6-C(1) 会議室

出席者：【委員】笹井理生（名大 C06）、桑野園子（大阪大 AC3）、河野公俊（理研）、野尻美保子（KEK C11）、田村裕和（東北大 C12）、藤澤彰英（九大 C16）

【オブザーバー】永長直人（理研&東大 C05）、大谷義近（東大 C09）、長嶋泰之（東京理科大 C15）、緒方芳子（東大 C18）横山順一（東大 C19）、森正樹（立命館大学 前委員長） 【Skype】伊藤好孝（名大 C04）、緒方芳子（東大 C18）

欠席者：[委員]村上洋一（KEK C10）、荒川泰彦（東大 C08）、

[オブザーバー]杉山和彦（京大 C02）、高橋尚志（香川大 C14）、高橋義朗（京大 C17）

1. 委員長と副委員長の決定

会員でC11 の野尻が委員長、連携会員でありC16のsecretoryの藤澤が副委員長として選出され、承認された。前回議事録を確定した。

2. 全体説明

- IUPAPの概要が委員長の野尻より資料1に基づいて説明された。IUPAP のメンバーには会員、連携会員でないものも多いが、全てのメンバーをオブザーバーとして加えて、IUPAP分科会として、その活動をサポートすることを確認した。
- 10月に3年に一度General Assembly(GA)が開催され、そこで新メンバーの決定や、活動方針が議決される。メンバー数は各国の分担金に応じて決定され、日本のシェアは15である。
- この分科会の目的は、学術会議とIUPAPの調整をはかること（分担金などの支払い等）、GA（三年に一度）や C&CC 委員会(年一回)情報を各メンバーに伝えること、日本からの提案をIUPAPに伝達すること、日本内の各コミッションメンバーの活動をサポートし、相互の調整をはかること、などである。

3. 総会（General Assembly）報告

- 昨年10月にブラジルにて開催されたGAについて野尻委員長より資料1ー8に基づいて報告された。資料5の項目1、3、6、11、12、13、14、16について特に説明があった。
- GAにおいて現メンバーが決定された。日本は15人の枠があり、推薦にあたっては20人、そのうち4人程度の女性の推薦が求められた。実際に推薦されたのは15名、女性1名であった。今後女性の推薦が重要になる。次回の推薦では現在日本からのメンバーがいないC3, C20への推薦、運営を担当するC1への候補推薦について検討を行う必要がある。（資料5項目1関連）
- GAには、日本から5人の投票権があり、日本から5人参加することが望ましい。旅費は限られており、IUPAPがサポートするのはChairのみである。Vice-Chair, Secretaryになっている人は是非旅費を確保して参加してほしい。
- 2022年をInternational Year of Basic Sciences for Developmentとすることが提案されている。正式に決定された場合には日本学術会議による対応のため本分科会による準備が必要であろう（資料5項目11関連）。
- 2019年には、Kg 原器による重さの定義から、新しいSI単位系の定義の変更が予定されている。これに関して、日本学術会議で関連するシンポジウムや学術フォーラムを開催する可能性について議論された。（資料5項目16関連）

4. コミッション報告、WG報告

今回は特になし。

5. 国際周期表年への対応について

- UNESCOにおいて2019年は国際周期表年とする旨が決定しているが、これにニホニウムを発見した理研からも積極的に関わりたいとの意向が伝えられている。日本学術会議としても対応する会員や連携会員を決定することが必要だろう。
- 世界周期表年はIUPAC分科会が主たる委員会となると考えられるため、現在IUPAC 委員とIUPAP 委員の間で対応方法について調整を行っている。今後の分科会どうしの意見交換や、周期表年に対応する委員の選出などは、メール等で意見交換しながら進めてゆく。

6. そのほか

各コミッション内の対応（Young Scientist Prizeなど）は各メンバーで対応する。学術会議へのメンバーからの要望はIUPAP 分科会で対応する。